



JAPAN MOTOR-RACING INDUSTRY ASSOCIATION

since 2008





日本自動車レース工業会



VISION

目指す未来の姿

「世界に誇れる日本のレーシングカー産業を築く。」

日本のレーシングカー開発基盤を再構築し、モノづくり産業を活性化することで、自動車レース産業の持続的な発展につなげます。

MISSION

使命

「レーシングカー開発を通じて、日本のモビリティ産業の発展に貢献する。」

開発技術の革新を促すため、企業間の連携を支援・企画し、未来のモビリティ文化の創造を目指します。

VALUE

私たちの価値観

- 技術革新** - 最先端のレーシングカー開発を通じて、新たな価値を創出する。
- 連携共創** - 業界内外のパートナーと協力し、ともに未来を切り拓く。
- 挑戦精神** - 一企業では成し得ない、最高峰のレーシングカー開発に果敢に挑む。
- 安全追求** - モータースポーツに不可欠な安全性を、技術革新の柱として高める。
- 価値発信** - 日本のレーシングカー開発技術の魅力と実力を、世界に発信する。
- 人材育成** - 次世代を担う技術者を育て、業界の未来を支える。

JMIAの歩み



2010 JAF-F4

「UOVA モノコック」を採用した車両が完成。それまでアルミモノコック製中心だった JAF-F4 カテゴリーに新型車両が多く参入するきっかけとなり、同年 JAF-GP 大会において「国土交通大臣賞」が設定されるなど、同カテゴリーの興隆に一役買いました。2023 年に新名称「Formula Beat」として再スタートした日本独自のレースカテゴリーです。

- ・RD10W：東京 R&D 製の JAF-F4 で、UOVA を最初に採用した機種（現在はイクワフォーミュラが販売）
- ・MC-090：MOONCRAFT 製の JAF-F4
- ・GF401→F108：ゲイナーと童夢が製作し、現在は ZAP SPEED が販売する JAF-F4
- ・RK-01：B-MAX が製作した JAF-F4

※「UOVA モノコック」とは：コストダウンのためにパイプフレームやアルミモノコックを使わずを得ない入門用低価格レーシングカーの安全性を向上させ、初心者が安心してレースを楽しめるように、アルミモノコック相当の価格のカーボンコンポジット・モノコックを開発しました。一般的なハニカム構造のカーボンコンポジット・モノコックの特徴は、軽くて強くて高価というところですが、目的を安全性の向上とし、同等の安全性は維持したまま、少々重量と剛性を犠牲にすることにより、大幅な低価格の実現を目指し研究開発を続けて完成したのが UOVA モノコックです。

2015 FIA-F4 Gen.1 (DOME F110)

当時、国際自動車連盟（以下 FIA）規格のフォーミュラカーは海外製しか存在せず、日本のレース界の危機を感じ企画され、トヨタ自動車の支援を受けて、JMIA 参画企業の協力により世に送り出されたのが DOME F110 です。世界共通 FIA-F4 規定のジュニア・フォーミュラとして、リーズナブルな価格と高い安全性を誇ります。また SUPER-GT の前座レースとして選手権が行われることになったことも手伝い、常に 40～50 台のエントリーを集める人気カテゴリーに成長しました。FIA-F4 規格を外れる 2024 年からは同車両のワンメイクレース、F110CUP がスタート。

2023 DOME CONCEPT SPORTS

DOME F111/3 をベースに、よりハイパワーなエンジンと、空力性能に優れた、タイヤを覆うフルカウリング、その他ギミックを仕込んで、よりハイパフォーマンスな性能を安全に楽しむことが出来るために開発されたのが、Dome Concept Sport です。現在開発継続中。

2024 NFP スタート

これまで多くのレーシングカーを開発してきたメンバーを中心に、JMIA 参画各社のより積極的な関与で、トップカテゴリーに迫るような、次世代フォーミュラコンセプトカーの製作を目指し、プロジェクトが立ち上がりました。

2008 発足

2008 F20

F20 は純粋に技術者の開発技術を競い合う新しいコンセプトの自動車レースを目指し、JMIA の用意する設計資料や部品類を使い、初めての人も高い安全性と低コストを実現しながらオリジナリティの高い高性能なレーシングカーの製造を比較的容易にスタートできるように配慮した企画です。

側突からもドライバーを守る頑丈なカーボンコンポジット・モノコックやタイヤ同士のヒットを防止するような形状により、低価格かつ高い安全性を目指して設計されています。コストダウンのネックとなっていたモノコックは、シンプルなソリッド構造と独自に開発した特殊な製法を採用することにより大幅なコストダウンを実現しました。

DOME F20、MOONCRAFT F20、TOKYO R&D F20 の 3 台のプロトタイプが製作されました。



2015 MOTHER CHASSIS (DOME M101)

最高水準の技術水準と安全性を兼ね備えた高性能なシャーシの開発を目指し、これをベースにロードゴーイング・スポーツカー、または、好みのオリジナル・レーシングカーを製作出来るように企画されました。モノコック単体から、ボディ以外が半完成のローリングシャーシまで、購入者が自由に選べるように開発したのが、マザー・シャーシです。2014 年 8 月に、DOME F110 と共に SUPER-GT 夏の鈴鹿大会でアンヴェイルされました。同年 SUPER-GT タイ大会にてテスト参戦。翌 2015 年には、GTA 協力の元、SUPER-GT・GT300 クラスに参戦する JAF-GT300MC 規格車両用として販売されました。海外チームを含む最大参戦 5 チームが、トヨタ・86、ロータス・エヴォーラ、トヨタ・マーク Xなどをベースに開発されたボディを被せて同クラスに出場。2016 年にはつちやエンジニアリングが GT300 クラスでチャンピオンを獲得しました。2024 年現在も 1 チームが継続して参戦しています。



2020 FIA-FR (DOME F111/3)

FIA の F1 を頂点とするヒエラルキーの中で、F3 を FIA-F3 と FIA-FR の二段階に分け、各リージョン（地域）のワンメイクカテゴリーとして新たに設定されたのがフォーミュラリージョナルカテゴリーです。2020 年に日本で始まった Formula Regional Japanese Championship (FRJ) に、オリジナルシャーシ DOME F111/3 を供給。選手権は今年で 5 年目を迎え、これまで 32 台の完成車を販売しています。



2024 FIA-F4 Gen 2 (MCS 4-24)

FIA よりホモロゲーションを受けた次世代 F4 車両 (FIA-F4 Gen.2) です。従来比で約 10 倍の耐荷重が求められるモノコック、エンジン、ギアボックス、その他も JMIA 参画企業の部品が多く採用されています。同カテゴリー Gen.1 車両で行われた 2015～2023 年に続いて、2024 年からも SUPER-GT レースのサポートイベントとして、レースが開催されます。



2025 年、次なるステップアップ構想を推進中



Super FJ: JAF 規定におけるマルチメイクの国内 Jr. Formula レース



JAF 規定内で改造自由なマルチメイクの Formula レース



FIA F4 Gen1 車両を使用したワンメイク Formula レース



FIA* が管理する FIA 規格車両による Formula4 カテゴリーのレース



FIA* が管理する FIA 規格車両による F4 の上位に位置するレース



JMIA 発足時からの目標であったトップフォーミュラ開発に挑んでいます。

25 年秋、プロト完成予定



*FIA= 国際自動車連盟

JMIA 会員企業

協賛会員



協賛企業



一般会員



*2025年5月 現在



特定非営利活動法人日本自動車レース工業会
JAPAN MOTOR-RACING INDUSTRY ASSOCIATION
〒521-0013 滋賀県米原市梅ヶ原 2462 番地
株式会社 童夢内
Tel : 0749-52-5001 Mail : info@jmia.jp

